

第44回 片頭痛の発作を抑えるくすり

頭痛の種類は国際的な基準で分けると 14 種類に分類されます。片頭痛はその中の一つで、日本では約 840 万人の片頭痛患者がいると推定されています。片頭痛は月に 1～2 回、4 時間～3 日間続く強い頭痛が起こり、日常生活などに支障をきたすことも多いのですが、痛みが治まれば次の発作までは何の症状もありません。発作時には頭痛と同時に吐き気などを伴うこともあり、「片」頭痛なので、痛みは片側のことが多いのですが、頭の両側に起こることもしばしばあります。片頭痛発作で特徴的なのが、発作の前に前兆症状が起こることがあることです（前兆症状はすべての片頭痛患者にあるわけではありません）。前兆症状は視覚症状（閃輝暗点）が最も多く、感覚症状（チクチク感）や、言語症状（失語）が現れることもあります。

片頭痛の発生は、いろいろな説はありますが、何らかの刺激で脳の血管の拡張と血管の拡張による神経刺激で頭痛に至るといわれています。この片頭痛には神経伝達物質のセロトニンの関与が指摘されており、セロトニンの作用を抑える薬が、片頭痛発作薬として利用されています。

片頭痛の発作を抑える薬は、発作が起こるときに効果を発揮するので予防的に使用することはできません。また、頭痛の起こり始める早期に使用すると有効性が高いことが報告されています。片頭痛の発作によく効くくすりですが、このくすりを飲みすぎると、その薬自体が頭痛を招くことがわかっており（薬物乱用頭痛）、その点からも飲み方はしっかりと守らなければなりません。（他に薬物乱用頭痛を引き起こすものとして、解熱鎮痛薬・オピオイド（麻薬）などが知られています）

それでは当院に採用されている片頭痛発作を抑えるくすりをみていきましょう。

ゾーミッグ RM 錠：zo- : zolmitriptan（主成分のゾルミトリプタン） -mig:migrate（片頭痛） RM:rapidly melt in mouth（口腔内速崩錠）より片頭痛発作のくすりは主成分の名前がすべて「〇〇トリプタン」なので、トリプタン系薬剤と呼ばれます。「ゾーミッグは 1 度飲んでも効果がない時には 2 時間開けて追加投与ができます。また、1 日の総量は 10mg（8 錠）以内と決められています。

イミグラン：Migrate（片頭痛）に由来する

イミグランは錠剤と皮下注キット製剤が採用になっています。比較的効き目が早く、即効性が期待できます。ゾーミッグ同様、効果不十分の場合は 2 時間（注射の場合は 1 時間）開けて追加投与ができ、1 日の総量は錠剤で 200mg（4 錠）注射で 6mg（2 回）以内と決められています。

アマージ：特になし

アマージは即効性が無く、体の中に長時間とどまっているため、持続性が期待できるくすりです。持続性があるため、効果不十分の時は 4 時間開けなければならず、1 日の総量も 5mg（2 錠）以内と決められています。

今回は、カルバペネム系のくすりです。